



PreSerV for Web Zmap-TOWN II オプションをご使用のお客様へ

## Zmap-TOWN II データ仕様変更の影響について

PreSerV for Web では、Zmap-TOWN II データを表示する Zmap-TOWN II オプションをご提供しています。2008 年 12 月以降に出荷開始される新しいバージョンのデータの動作検証結果をご報告します。

### 1. データ変更内容

添付の「Zmap-TOWN II における名称なし属性の対応について」をご参照ください。

### 2. データ提供時期

以下、ゼンリン様からのご案内です。

2008 年 12 月以降に新しいバージョンの Zmap-TOWN II が出荷開始されていきますが、しばらくの間は新旧バージョンが混在します。導入される地区(市区町村)がどちらのバージョンで出荷されるかについては、ゼンリンの営業窓口へご確認ください。お手持ちの地図データの新旧を判断する方法は、メディア管理ファイルのマイナーフォーマットレベル<sup>\*1</sup>を参照願います。\*1 従来品 1.3 新バージョン 1.4

### 3. PreSerV for Web Zmap-TOWN II オプションの動作

PreSerV for Web Zmap-TOWN II オプションの動作への影響を以下にモジュール単位に記載します。

#### 3. 1 Zmap-TOWN II オプション (psvzmd50.jar)

- ・ 変更後のデータを使用した場合も正常に表示できます。
- ・ 仮文字△は表示されません。
- ・ 世帯主名がない建物ポリゴンにも図内属性番号(属性情報のリンクキー)は設定されます。

仮文字が追加された 127,128 レイヤが表示対象になっている場合も、仮文字の幅/高さが 0 のため、表示されません。ただし、図形化の処理は行うため性能に影響が出る可能性があります。アプリケーションでカスタマイズするインタフェースの、psvConvert#set\_attrib にて、127,128 レイヤの場合に、null を返す処置をすることで、図形化の対象から除外されます<sup>\*2</sup>。\*2 建物ポリゴンの図内属性番号は設定されます

#### 3. 2 Zmap-TOWN II 地図登録ツール (psvzmdinstalltool50.jar)

- ・ 変更後のデータを使用した場合も正常に登録できます。

#### 3. 3 Zmap-TOWN II 属性変換ツール (psvzmdconvtool50.jar)

- ・ 変更後のデータを使用した場合も正常に変換できます。
- ・ 属性テーブル変換結果の CSV ファイルの「ビル名もしくは個人名」に「△」が出力されます。

属性テーブル変換結果をアプリケーションで使用する場合は、「ビル名もしくは個人名」がない場合に「△」がでることを仕様とする、または、別の文字に置き換える、などの対応をご検討ください。

# Zmap-TOWN II における名称なし属性の対応について

2008年10月1日

株式会社ゼンリン

## 1. 背景

現在 Zmap-TOWN II では構造上、住所である地番は世帯名称の属性データに格納しています。よって空き家や掲載拒否、調査不能などの世帯名称が存在しないケースではこの属性データが存在しない状態となり、結果的に地番が検索できないという問題が存在しています。

今後、個人情報保護の観点より掲載拒否や調査拒否などが増える傾向にあり、地番があるが名称が無い建物や階数のみ存在する建物などの救済処置について対応の必要性が高まっています。

## 2. 目的

Zmap-TOWN II において世帯名称やビルアパート名称が存在しない場合でもアプリケーションが地番を検索できるように属性情報を格納し、それに伴うフォーマットの格納仕様の改定を行います。

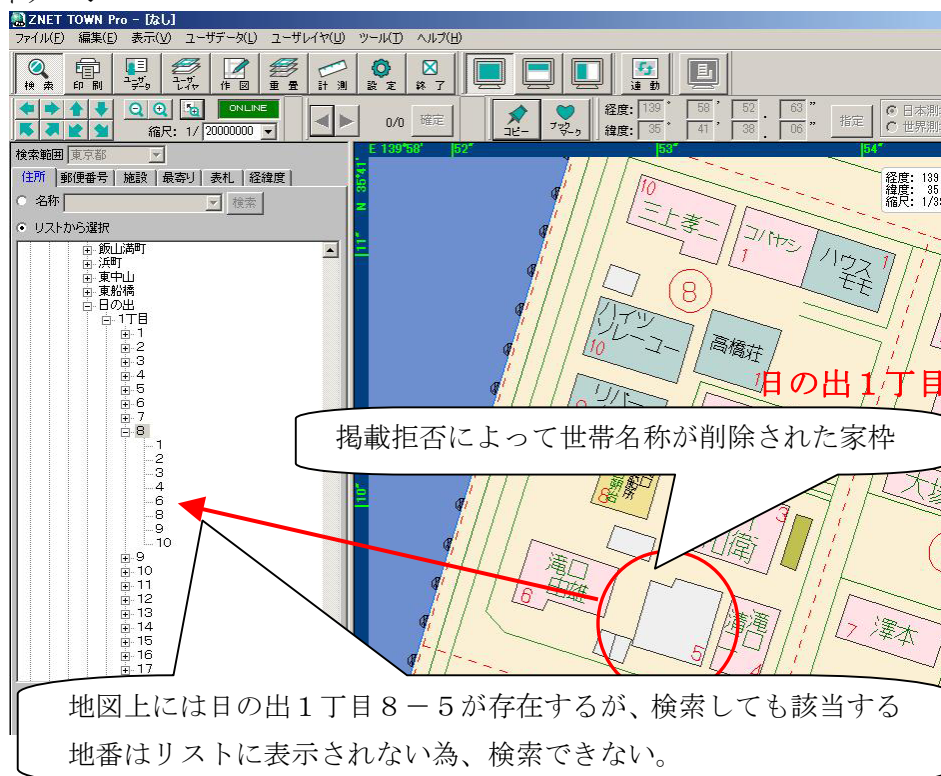
## 3. 検討条件

- ・お客様の利便性向上につながること。
- ・システムメーカー及びベンダー様に負担の少ない変更対応であること。
- ・商品としての価値を高める対応であること。

## 4. Zmap-TOWN II で発生する現象

現在掲載拒否など未確認情報となった世帯名称は地図上より削除されてしまいますが、地図上にはその建物や地番情報、階数はそのまま保持し、表示されます。但し地番情報や階数情報などが存在しているにも関わらず、アプリケーションではその地番まで住所検索を行うことができません。

※現象のイメージ



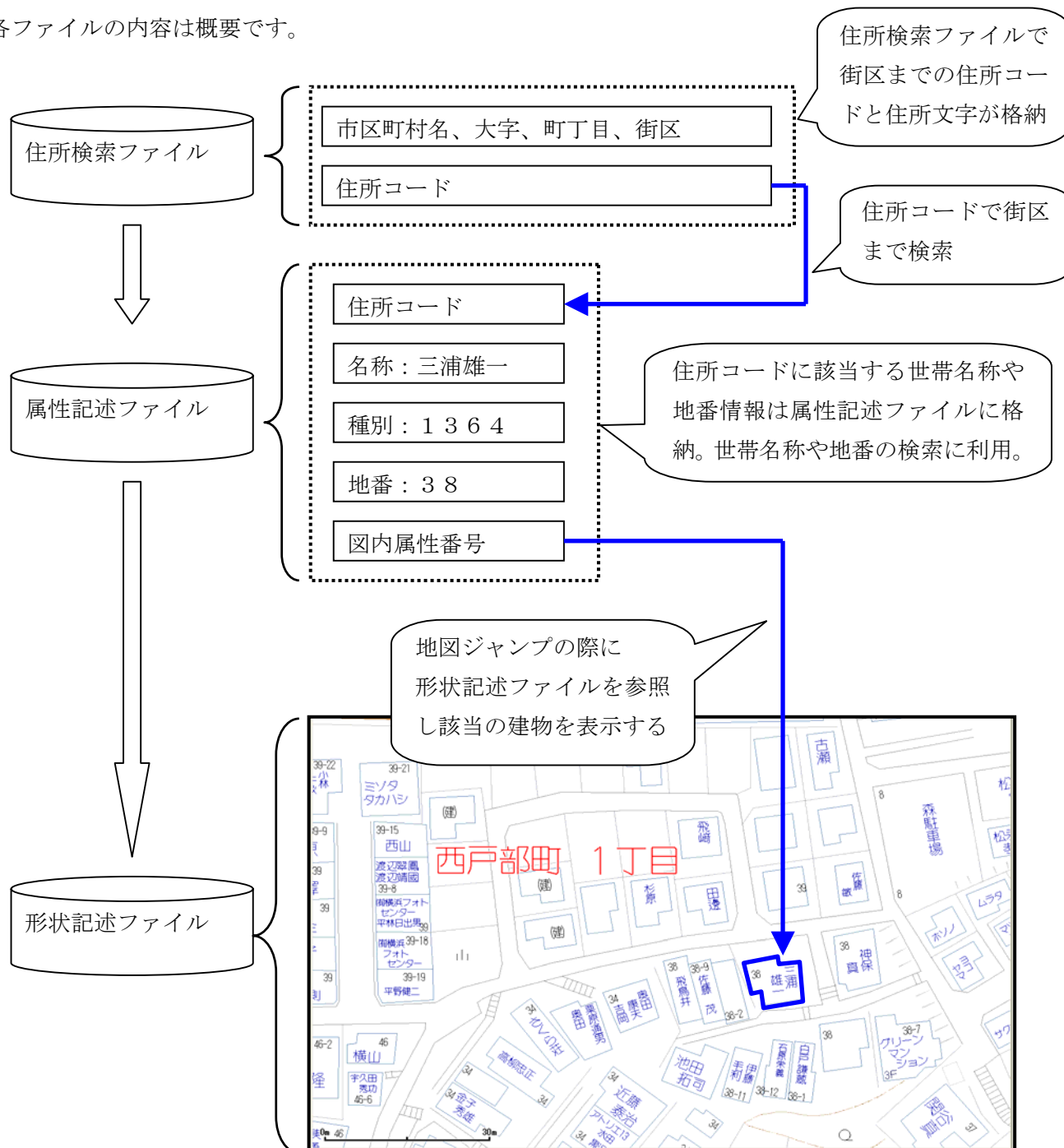
# 添付

## 5. 原因

Zmap-TOWNIIで地番までの住所検索を行なう為には、通常以下のように住所検索ファイルと属性記述ファイルの2つファイルを利用し検索します。

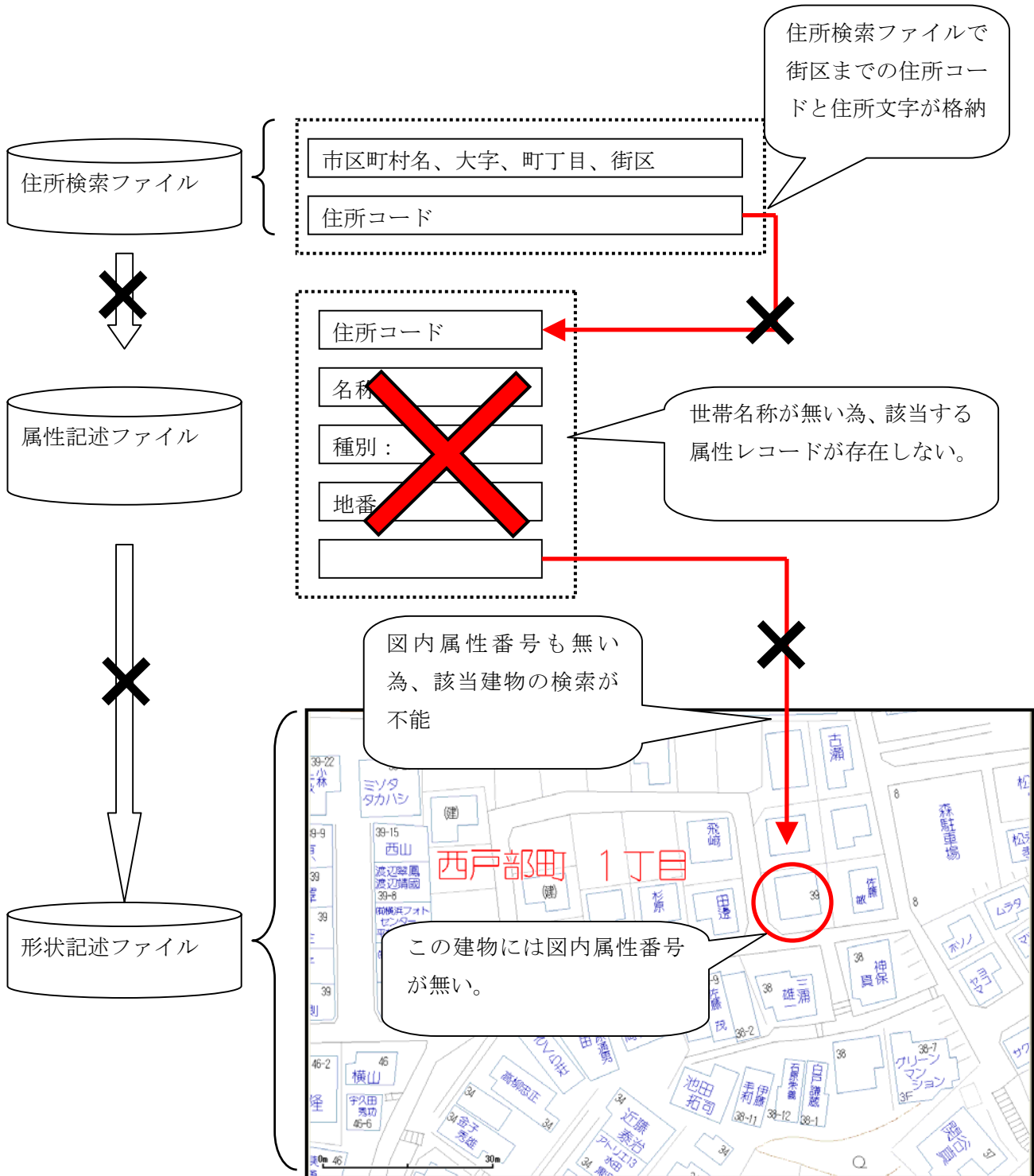
### 5.1 通常の処理イメージ

※各ファイルの内容は概要です。



### 5. 2 属性記述ファイルが無い状態

掲載拒否となった場合、世帯名称が削除される為、属性記述ファイルに該当の属性レコードが存在しません。よって住所検索ファイルだけでは街区のレベルまでしか検索できず、地番の検索ができません。また該当建物にも図内属性番号が無い為、検索する手段が一切ない状態となります。



## 添付

### 5. 3 属性データとは

属性データとは、名称（世帯名称、ビル名称）、住所（街区までコード化）、地番、階数などの個々の建物の情報をまとめたもので、地図上の世帯名称、ビル名称などの文字形状とリンクしています。

リンクする地図上の文字が存在しない場合は、属性データは作成されません。

※属性データのレコードイメージ（あくまで格納概要です。）

項	名称	概要	備考
1	<b>図内属性番号</b>	<b>地図上の形状とリンクするためのキー</b>	<b>更新時にもキー保障を行っている。</b>
2	属性種別コード	属性の種類を分類するコード	1200:目標物 1363:建物 1364:個人 1365:事業所 3118:階 3119:部屋 0:その他(道路名称、バス停など)
3	属性の名称	世帯主名称、ビル/マンション名称、交差点名称/バス停/道路名称/橋名 など。	この属性名称が存在しない場合、このレコードは作成されない。
4	<b>建物の階数</b>	<b>ビル、マンションなどの階数。</b>	<b>20</b>
5	住所コード	建物の街区レベルまでの住所を示すコード。	コードから住所名称に変換するには住所検索ファイルが必要。 市区町村、大字、字丁目、街区と階層的に区切られている。
6	<b>地番または戸番</b>	<b>建物の地番</b>	<b>8桁の文字列。</b>
7	別記属性名称	建物内属性の名称。属性が名称を持たない場合には""が出力されます。	別記の場合に有効
8	階数種別文字	階数の種別。 F:通常階 B:地下 R:屋上 M:中n階	別記の場合に有効
9	階数	建物内属性の存在する階の番号。	別記の場合に有効
10	部屋名称	部屋の名称。	別記の場合に有効

### 5. 4 原因のまとめ

住所検索などで利用する地番情報は、属性データとして管理されていますが、地図上にリンク対象となる世帯名称、又はビル名称がない場合には、属性データが生成されません。又、地図上の名称が削除された場合は、その名称にリンクされた属性データも削除されます。

つまり、名称がわからず掲載できない場合や掲載拒否により地図上の名称を削除した場合には、地図上のリンクする名称がないため、属性データが提供されません。

そのため、住所検索等で地番の検索ができないということが発生します。

# 添付

## 6. Zmap-TOWNII 対応策

### 6.1 目的

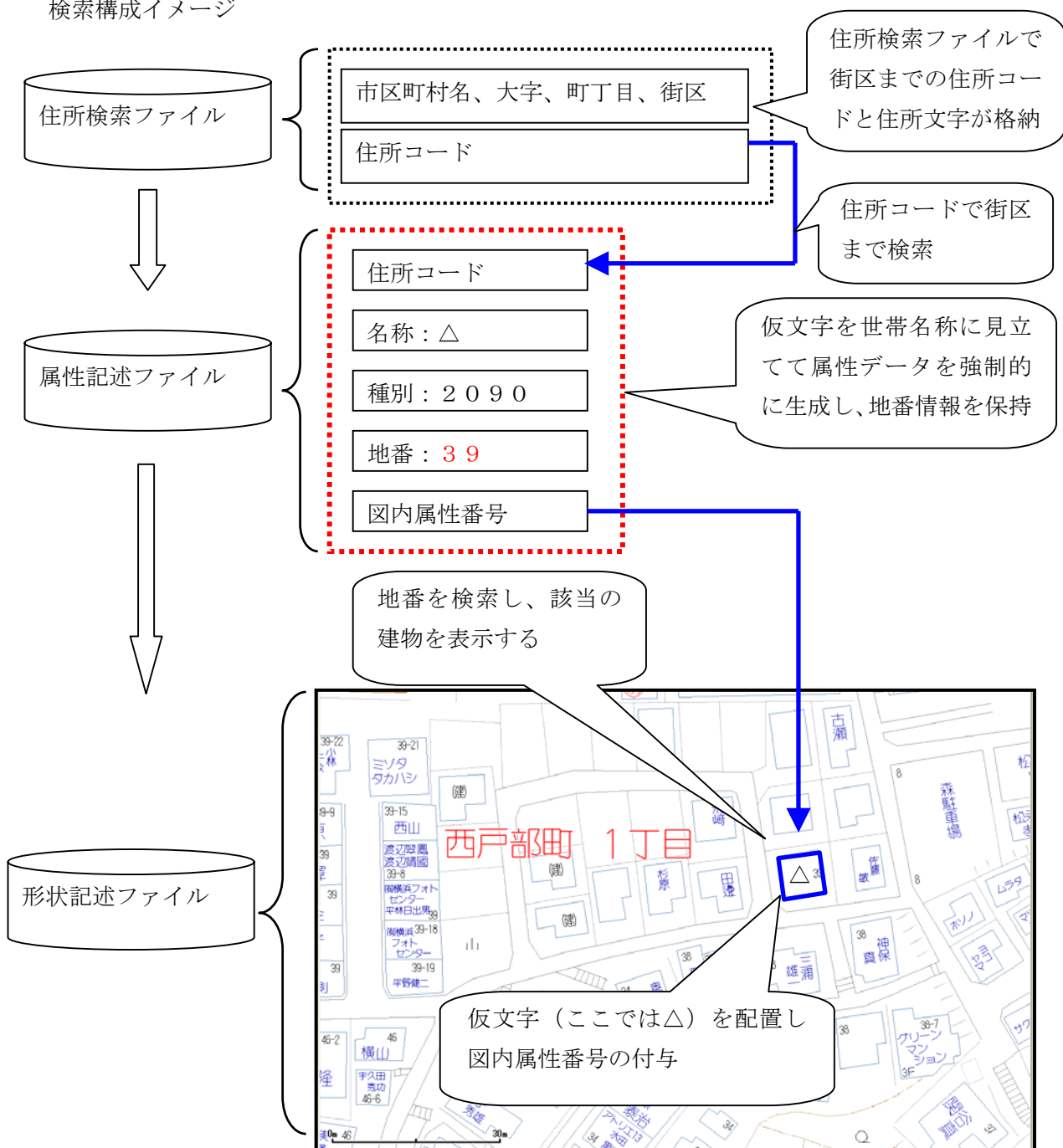
世帯名称が提供できない建物でも地番までの住所検索を可能にします。

### 6.2 対応内容

具体的な対応については、名称の無い建物内に架空の文字（以降：仮文字と表現）を配置し、その仮文字列に対して属性データを生成します。その属性データに地番や階数などの情報を格納することで地番検索などが可能となります。

（但し、今回の対応は、データ格納仕様としての変更で、地番フィールドのデータ有無に関しては調査状況に依存します。）

#### 検索構成イメージ



## 6. 3 変更点、及び 対応の詳細内容

## ① Zmap-TOWN II (ZMD)フォーマットの構造上の変更点

既存ファイルの構造変更、及び新規のファイル追加は行っておりません。  
構造上は、互換性を確保しています。

## ② 地図データ格納基準の変更

世帯名称の無い建物に仮文字（△）を配置します。

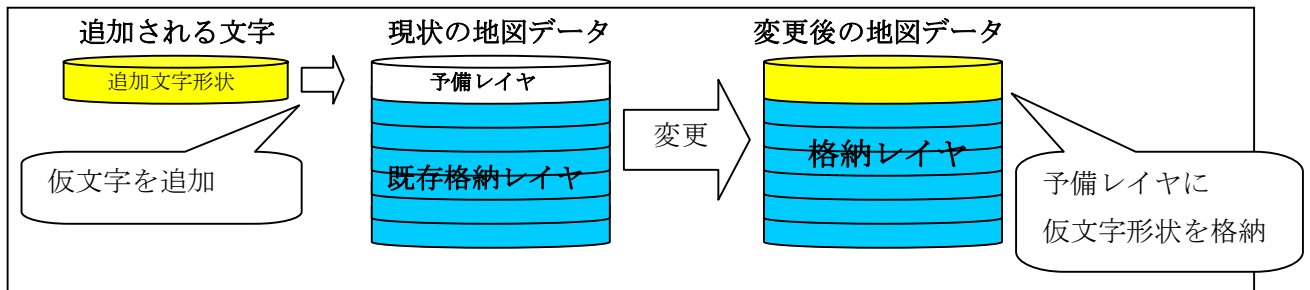
これらの仮文字は、予備レイヤに格納されます。

また、この仮文字に対して属性データを生成します。（名称「△」の属性データが生成されます）

## ・形状記述ファイル

現在、予備となっているレイヤに仮文字を格納します。

## ※提供イメージ



## 仮文字を格納する予備レイヤ

- ・地番及び階数が存在する建物の場合は、レイヤ127に格納します。
- ・建物形状のみの場合は、レイヤ128に格納します。

# 添付

## ・属性記述ファイル

仮文字に対応する属性データを生成します。

また、属性種別コードを追加し、仮文字に対する属性データであることを識別します。

パターン①	パターン②	パターン③	パターン④	パターン⑤
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           12            善隣 太郎            3F         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           13            △            4F         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           15            △         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           △            5F         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           △         </div>
通常のケース	地番&階数	地番のみ	階数のみ	建物形状のみ

- ※ パターン①、②③、④、⑤を属性種別コードでそれぞれを区別できるようにします。
- ※ 又、面種別(一般建物、目標物、無壁舎)によっても属性種別コードを区別します。
- ※ (詳細次ページ参照)
- ※ また、仮文字を格納するレイヤも②③④と⑤とで区別します。

<一般建物の場合の属性データ(例)>

パターン	基本属性番号	属性種別コード	属性名称	郵便番号	建物階数	住所コード	地番	...
①	0000000002	1364	善隣太郎	00100065	3F	13120....	12	
②	0000000002	2090	△	00100065	4F	13120....	13	
③	0000000002	2090	△	00100065	(なし)	13120....	15	
④	0000000002	2091	△	00100065	5F	13120....	(なし)	
⑤	0000000002	2092	△	00100065	(なし)	13120....	(なし)	

<属性種別コードとレイヤ番号の対応表>

面種別	パターン	属性種別	文字レイヤ番号
一般建物	①	1364	106
	②	2090	127
	③	2090	
	④	2091	
	⑤	2092	128
目標物	①	1200	107
	②	2290	127
	③	2290	
	④	2291	
	⑤	2292	128
無壁舎	①	—	—
	②	2190	127
	③	2190	
	④	2191	
	⑤	2192	128



## 添付

### 7. Zmap-TOWN II を利用するアプリケーション対応について

#### 7. 1 アプリケーションの対応内容

今回の対応により予備レイヤに文字列を格納します。また属性種別コードを追加しています。

そのため、現状のアプリケーションに Zmap-TOWN II をインストールした場合やコンバート処理を行った場合に問題が発生する可能性があります。予備レイヤに仮文字を追加しているため、仮文字が表示されてしまうことに対して、ユーザ様より予期しないクレームとなる可能性もあります。

よって Zmap-TOWN II をご利用頂いている各ベンダー様には各種GISアプリケーションにおいて影響の確認および対応をお願いいたします。

#### 7. 2 地番情報を活用するには

今回追加された属性種別（2090、2190、2290）の属性データを地番検索の対象として取り込むことで、世帯名称の無い、地番のある建物形状について地番検索が可能となり、より広範囲な検索が実現します。

また指定された地番より地図表示を行う場合に、図内属性番号から世帯名称文字列に対してジャンプして地図表示処理を行っている場合には、属性レコードとセットとなる仮文字（127）の取り込みが必要になります。仮文字を地図上に表示させるかどうかは、個別に判断をお願いします。

#### 7. 3 階数情報を活用するには

追加された属性種別（2090、2190、2290、2091、2191、2291）の属性データを階数情報の対象として取り込むことで階数情報が取得できる建物が増加します。階数情報を取得し3Dなどで利用する場合により対象となる建物が増加します。

#### 7. 4 さらにユーザDBの紐付けに活用するには

今回の対応において地番及び階数の存在する建物には仮文字を配置することで属性データを生成し、図内属性番号の付与を行っています。さらに地番、階数などの文字が存在しない建物にも仮文字を配置し属性データを生成し、図内属性番号を付与しています。これにより名称の無い建物に対して図内属性番号の取得が可能となります。この図内属性番号を利用することで、すべての建物形状に対してユーザデータとリンクするなどの処理が可能となります。また、図内属性番号は地図データのメンテナンスにおいてもキー保証の対象となります。※保証条件については別途検討

世帯名称文字列とユーザDBをリンクする方式の場合には追加されたレイヤの取り込みが必要となります。地番及び階数の存在する建物にはレイヤ番号127、なにも存在しない建物にはレイヤ番号128にて仮文字を追加しています。この追加されたレイヤに格納している仮文字を取り込むことでリンク対象の図形が増加し、リンク率の増加などが期待できます。建物形状とリンクする方式の場合は仮文字の取り込みは必須ではありません。建物形状より図内属性番号を取得し、リンクさせることができます。

## 添付

### 7. 5 エラーを発生させない為に

最低限エラーを発生させない為にはコンバート処理において追加されたレイヤ（127&128）の放棄及び追加された属性種別（2000番台）のデータを放棄します。これにより見栄えでのクレームの発生を防止し、未対応の属性の取り込みを防止することができます。

またZMDフォーマットのデータを直接参照するアプリケーションは、レイヤ127&128を非表示とする必要があります。又、追加された属性種別（2000番台）の処理をスキップしてください。これにより今まで通りのZmap-TOWNIIの仕様となります。

### 8. スケジュール

12月1日以降にメンテナンスされるZmap-TOWNIIより適用予定です。

### 9. その他

- ・ZMDフォーマットのマイナーバージョンを変更します。  
これに伴い、メディア管理ファイルのマイナーフォーマットレベルが修正されます。  
1. 3→1. 4
- ・仮文字として格納する文字は、「△」JIS83コード(hex): 2224を採用します。

以上